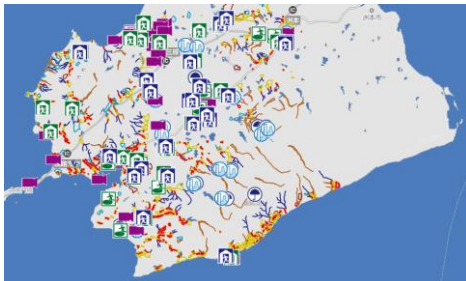


兵庫県立大学 南あわじ市との連携事例

自治体の課題(ニーズ)



【出典：南あわじ市 <https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/safety/hazardmap/>】

【どこから】

南あわじ市との減災復興フィールドワークの取組である。

【どんな課題】

- ・ハザードマップを読み込むことで災害ハザード・リスクについて理解する。
- ・常時微動観測の実習を行い、地盤および建物の振動特性を把握する。

【参加者】

南あわじ市職員

※常時微動観測とは、常時微動を測定することにより、その建物や地盤の揺れやすさの特徴がわかります

研究成果(シーズ)の還元



【南あわじ市庁舎周辺】



【常時微動計測の概念】

【出典：(株)日さく <https://www.nissaku.co.jp/wp-content/themes/nissaku/pdf/ng23.pdf>】

【実施内容例】

- ・南あわじ市のハザードマップを読み込むことで災害ハザード・リスクを理解しながら市職員との意見交換を行う。
- ・南あわじ市の市役所内2か所に設置した常時微動計測システムを用いて、常時微動観測の実習を行う。

【活動成果】

- ・災害ハザード・リスクについて、今後の対応につなげる。
- ・計測したデータを基に、地盤および建物の振動特性を把握するとともに、推定する手法を習得した。

この連携に携わった研究者



減災復興政策研究科
永野 康行 教授

(研究者からのメッセージ)

災害、特に地震災害において建物の耐震性はとても重要です。建築構造物の耐震技術は言うまでもありませんが、表層地盤の振動特性を把握することも大切です。理論的な研究の構築にとどまることなく、自治体他との連携により実践的な事業にも取り組んでいます。

※ 研究者の経歴等は(URL:<https://researchmap.jp/naganoyasuyuki>)をご参照下さい。